

「上海デザインビジネス事情を学ぶ」

講師 佐々木 尚 氏 (SHOWデザイン)



インターテキスタイル上海会場



シャンハイマート

TDA西日本では、経済成長著しい上海で活発なデザイン活動が続けられる佐々木尚氏を講師に招き、中国茶を楽しみながら9月8日 大阪繊維会館にて勉強会を開催しました。その要旨を報告します。

佐々木氏の上海での活動はおよそ4年前から始まる。そのSHOWデザインの活動から得られた上海のテキスタイルデザインビジネスの状況を、映像を交えて語っていただいた。まずは急激に変化する都市の様子と古くから変わらない街並みの風景から伺い知る拡大する一方の貧富の差、都市部での爆発的に増大する消費の姿を見る。上海の事情しかわからないがとの前置きながら、特に発展が著しい上海は中国の中でも特殊であるがそれだけに今後の沿海部の変化を象徴しているとのこと。

さて、需要が伸びる一方の国内のメーカーも今、デザインの供給が追いつかないとのこと。特に図案を欲しがっている現状がある。

つい先日もインターテキスタイル上海が開催されたが、この展示会は年を追うごとに成長し、日本を含む海外のデザインブースも24社に増えている。1 デザイン1000ユーロでも引き合いが出て来たという。

また、国内に近年数百のデザイン学校またはコースを作って、デザイナーの育成を図っているが 現場で効果が出るにはまだ4、5年かかるのではないかと。

デザインを供給するには会社を興す必要があり、約500万円の費用で、手続きは認可まで8ヶ月ほどを必要とするが、それを現地人だと1ヶ月で済むこともあるという。

その他、中国人を相手に事を進めるには何よりもまず、日本語が堪能で交渉能力のある 優秀な中国人パートナーをいかに見つけるかが大切との指摘。ときには袖の下も必要。いかに中国的システムを理解するかがポイントとなる。

日本人同士であれば敢えて話さずとも前提になっているようなことも逐次確認する必要がある、中国というのは50の国、100のモラルがあるつもりで接しないと足元をすくわれることがあるとのこと。

中国人は約束や契約の概念に乏しく、納期なども約束の1.5倍はかかる